

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	手術部
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 4: 502-504
Issue Date	2024-03-21
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2401
Rights	©2024 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-06-30T19:41:20Z

岡善隆. 地震後、放射線治療法別の対応. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定 2022 年度東北 2 地区講習会; 20221210; 福島.

長澤陽介. 前立腺癌の放射線治療 (3D-CRT・IMRT). 放射線治療あすなる会第 2 回放射線治療計画セミナー; 20221217; Web.

手術部

論 文

〔原 著〕

Matsumoto Y, Obara S, Hakozaki T, Isosu T, Inoue S. The effects of chest drainage on pressure-controlled ventilation. JA Clinical Reports. 202210; 8(1):78.

薬師寺たつみ, 小原伸樹. 【実践にすぐ生かせる! 「いつ?」「なぜ?」「なに?」がわかる! 麻酔薬の投与順と使い分け NAVI】(2章) 全身麻酔に使用する薬剤の使い分けを完全マスター! 使い分けをマルッと理解! 鎮痛薬オペナーシング. 202211; 37(11):1055-1061.

小原伸樹. 全静脈麻酔 (TIVA)、鎮静 (MAC). 麻酔科学レビュー. 202206; 2022:159-163.

〔総説等〕

Obara S. Simulation of residual sedation effect of remimazolam: pharmacokinetic-pharmacodynamic simulation can be an additional standard anesthesia monitoring method. Journal of Anesthesia. 202204; 36(2):167-170.

〔症例報告〕

Honda J, Kuwana K, Kase S, Obara S, Inoue S. Respiration and circulation affected by gas leakage into the abdominal cavity during endoscopic esophageal submucosal dissection after gastrostomy: a case report. JA Clinical Reports. 202201; 8(1):3.

Shiraishi T, Obara S, Hakozaki T, Isosu T, Inoue S. A case requiring re-thoracotomy due to a significant reduction of tidal volume after commencement of chest tube drainage under pressure control ventilation following lower lobectomy. JA Clinical Reports. 202205; 8(1):36.

Obara S, Oishi R, Nakano Y, Kurosawa S, Inoue S. Anterior knee pain post-multiple surgeries for tibia fracture effectively managed with infrapatellar fat pad injection: a case report. JA Clinical Reports. 202210;

8(1):82.

本田潤, 井石雄三, 大石理江子, 箱崎貴大, 小原伸樹, 井上聡己. 外傷による急性A型大動脈解離術後に人工心肺離脱困難に陥りLVADを装着し救命した1例. 日本臨床麻酔学会誌. 202201; 42(1):21-25.

遠藤千麻, 大石理江子, 中野裕子, 黒澤伸, 小原伸樹, 村川雅洋. 特発性前骨間神経麻痺の一例. ペインクリニック. 202201; 43(1):59-62.

小原伸樹, 大石理江子, 中野裕子, 井上聡己. 上腕の帯状疱疹の治療中に後頭神経痛を発症した一例. ペインクリニック. 202207; 43(7):776-778.

〔その他〕

鈴木朋子, 小原伸樹. 画像読み取りアプリケーション WebPlotDigitizer と汎用プログラム言語 Python を用いた薬物動態解析およびシミュレーションの紹介. 麻酔. 202209; 71(9):1037-1047.

書籍等出版物

小原伸樹. Q5. レミマゾラムの薬物動態について教えてください. In: 稲垣喜三, 山蔭道明, 中島芳樹 編集. レミマゾラム Q&A : 明日からの臨床麻酔が広がる. 東京: 克誠堂出版; 202205. p.17-20.

小原伸樹. Q6. 薬物動態に影響を与える因子に、どのようなものがありますか? In: 稲垣喜三, 山蔭道明, 中島芳樹 編集. レミマゾラム Q&A : 明日からの臨床麻酔が広がる. 東京: 克誠堂出版; 202205. p.21-23.

小原伸樹. Q14. シリンジポンプを用いた導入法でよい方法は? A. 全静脈麻酔の場合: 麻酔科医がよく使うシリンジポンプを用いる方法. In: 稲垣喜三, 山蔭道明, 中島芳樹 編集. レミマゾラム Q&A : 明日からの臨床麻酔が広がる. 東京: 克誠堂出版; 202205. p.61-63.

研究発表等 (講演・口頭発表等)

〔研究発表〕

小原伸樹, 大石理江子, 中野裕子, 佐藤薫, 黒澤伸, 井上聡己. ギランバレー症候群後遺症によるしびれ感に対しミロガバリンが有効だった一例. 日本ペインクリニック学会第2回東北支部学術集会; 20220205; Web(秋田). プログラム・抄録集. 17.

大石理江子, 中野裕子, 小原伸樹, 佐藤薫, 黒澤伸, 井上聡己. 18年間継続していたケタミン静脈注射による治療を中止できた一例. 日本ペインクリニック学会第2回東北支部学術集会; 20220205; Web(秋田). プログラム・抄録集. 18.

白石太一, 吉田圭佑, 本田潤, 箱崎貴大, 小原伸樹, 五十洲剛, 井上聡己. 胸腔ドレーン吸引により換気量が激減しリークを疑い再開胸した一例. 第49回日本集中治療医学会学術集会; 20220320; Web(仙台).

小原伸樹, 大石理江子, 三部徳恵, 黒澤伸, 井上聡己. 脛骨骨折修復術後の膝痛に対し膝蓋骨下脂肪体への注射が有効であった一例. 日本区域麻酔学会第9回学術集会; 20220415-16; 宜野湾/Web. プログラム・抄録集. 146.

大石理江子, 吉田圭佑, 小原伸樹, 黒澤伸, 井上聡己. cadaver を用いた2つの方法での星状神経節ブロックの薬液の広がり比較. 日本区域麻酔学会第9回学術集会; 20220415-16; 宜野湾/Web. プログラム・抄録集. 183.

松岡智恵, 荒木英治, 小原伸樹, 黒澤伸. 麻酔導入期における反応消失時のプロポフォール効果部位濃度と麻酔維持期の麻酔薬の必要量との関係. 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会; 20220902-1003; Web(札幌).

本田潤, 吉田圭佑, 田中詩織, 長谷川貴之, 小原伸樹, 井上聡己. 僧帽弁置換術後にくも膜下出血をきたし抗凝固薬を拮抗したことで術後機械弁の一部が機能不全を起こした症例. 日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会; 20220917-18; 京都/Web. Cardiovascular Anesthesia. 26(Suppl.):239.

長谷川貴之, 吉田圭佑, 本田潤, 箱崎貴大, 小原伸樹, 井上聡己. 左内頸静脈から穿刺した透析用カテーテルが後胸腺静脈に迷入した一例. 日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会; 20220917-18; 京都/Web. Cardiovascular Anesthesia. 26(Suppl.):267.

小原伸樹, 渡部友来, 花山千恵, 細野敦之, 井上聡己. 麻酔科医を対象とした静脈麻酔試験の試み. 第29回日本静脈麻酔学会; 20221126; 豊中. プログラム・抄録集. 30.

渡部友来, 小原伸樹, 井上聡己. レミマゾラムとプロポフォールを併用した全静脈麻酔法の4例. 第29回日本静脈麻酔学会; 20221126; 豊中. プログラム・抄録集. 35.

〔その他〕

小原伸樹. 共催セミナー TIVA 実践に役立つ基礎知識. 日本麻酔科学会第69回学術集会; 20220616; 神戸/Web.

小原伸樹. 麻酔科領域講習 (リフレッシュャー) ・ベーシック 薬物体内動態の基礎. 日本麻酔科学会第69回学術集会; 20220617; 神戸/Web.

集中治療部

論 文

〔原 著〕

Hatakeyama J, Inoue S, Liu K, Yamakawa K, Nishida T, Ohshimo S, Hashimoto S, Kanda N, Maruyama